

# 「とよた茶」産地におけるGAP認証取得に向けた取組

～みんなで取り組んでモチベーションアップ～

太田 慎二（豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課）

【2021年11月執筆・2024年2月掲載】

## 【要約】

「とよた茶」の海外市場における競争力強化を目的に、GAP認証の取得を目指し、研修会や個別指導を実施した。令和元年に9戸が愛知県GAPの団体認証を取得し、令和3年に2戸がAS IAGAP認証を取得した。GAP認証取得のカギはいかにしてモチベーションを維持向上させるかという点にあると思われ、産地一丸となって取り組むことが有効である。

## 1 はじめに

豊田市では、明治20年代に製茶が始まり、昭和40年代から農薬に過度に頼らない安全安心な「とよた茶」の生産に力を入れている。茶の輸出の機運が高まってからは、輸出相手国の残留農薬基準に適合した栽培体系を徹底し、近年では多くが輸出用として流通するようになった。

ところが、海外市場における緑茶といえば、安価な中国産が多くを占めており、日本産の緑茶は安全安心な高級品として評価されているものの、競争力が十分であるとは言えない。競争力強化のために、輸出相手国で通用する「国際水準GAP認証」の取得を目指した。

## 2 令和元年度までの取組

農業改良普及課の指導を受けて豊田市内の茶農家9戸がGAPの取組を進め、令和元年に「とよた茶愛知県GAPの会」として愛知県GAPの団体認証を取得した。これを足掛かりに、国際水準GAPの一つである「AS IAGAP」へのステップアップを図ることになった。

表1 愛知県内で主に取得されているGAP認証一覧

GAPの種類	愛知県GAP	JGAP	AS IAGAP	GLOBAL G. A. P
国際水準GAP	×	○	○	○
GFSI承認	×	×	○（青果物、穀物、茶）	○（青果物）

※GFSI（Global Food Safety Initiative）は、世界的に展開する食品企業が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、協働して食品安全管理の承認等を行う民間団体。

※愛知県GAP認証制度は令和3年11月末日で廃止。

## 3 令和2年度の取組

### （1）研修会の開催

茶農家を対象に国際水準GAPに関する研修会を3回開催した。外部講師を招き、第

1回は製茶工場における取組について、第2回は茶栽培ほ場における取組について、第3回は書類の作成について学んだ。研修会の前後には、参加者に対して自身の理解度向上を実感させるためテストを行った。

研修会には毎回茶農家9戸が参加し、知識を得ようという意気込みが見受けられた。研修会後に実施したテストでも、得点数が研修会前に比べて3割程度向上した。



図1 研修会（製茶工場）



図2 研修会（茶栽培ほ場）

## （2）個別指導

工場やほ場を巡回し、認証基準に適合しない状態があれば是正指導した。併せて、他地域の認証取得者から審査機関などの情報を集めて提供したり、国際水準GAP認証の必要性を説明するなど、認証取得に向けたモチベーションの維持や雰囲気づくりを行った。

## 3 認証取得状況

愛知県GAPについては、「とよた茶愛知県GAPの会」（9戸）が令和元年に認証を取得した後も取組を適切に継続しており、認証取得から1年が経過した令和2年11月に内部点検を、同12月に県による現地確認を実施し、認証基準に適合していることが確認された。

ASIA GAPについては、令和3年に2戸が認証を取得した。

## 4 考察

当初、市内の茶農家はGAPについて「面倒な作業が多い」というイメージを持っており、取組には消極的であった。そのような中、どのようにして農家本人がやる気になり、認証取得に至ったのか、その要因は以下の4点ではないかと推察した。①農家同士の交流が活発であり、一緒に研修に参加したり、互いに取組状況を確認したり、意見交換することで、産地一丸となってモチベーションを維持できたこと、②茶業はGAP認証取得が最も盛んな分野であり、農家の抵抗感が比較的小さかったこと、③愛知県GAP認証が取組を始める“取っ掛かり”になったこと、④GAPについて学ぶ中で食品安全や労働安全などの面でリスク低減効果を実感し、多少労力をかけてでも経営にプラスになると期待できたこと。

今後は、認証取得者を手本にし、産地の他の農家へ取組を広めていく予定である。